THE ROTARY CLUB OF KITAMI

Rotary

R. I. DISTRICT 2500 JAPAN

北見ロータリークラブ週報

●創立/1937年9月19日 ●事務所/北二条ビル 3階 302号 ☎25-2824 ●例会日/毎週水曜日 ●例会場所/ホテル黒部

HPアドレス https://www.kitamirc.jp

第 3519 回例会・2025 年9月 10 日

本日のプログラム

「Passion Talk」

2025~2026年度国際ロータリーテーマ

UNITE FOR GOOD

R.I. 会長 フランチェスコ・アレッツォ

第3518回例会（9月3日）の記録

ロータリーソング 奉仕の理想

ゲスト 米山奨学生 北見工業大学 テリゲル 様

「北見ＲＣ創立記念夜間例会（88周年）」

会長挨拶 小林会長

皆さんこんばんは。本日は北見ロータリークラブ創立記念夜間例会です。今年で88周年の歴史を積み重ねてきました。先人たちの熱い思いを胸に抱き、７月からスタートをさせていただいております。歴史をたどりますと、野付牛ロータリークラブは、商工会議所の伊谷半次郎会長を中心に、昭和12年9月19日に野付牛町会議室にて結成されました。この年は、明治30年に北光社移民と屯田兵による開拓のクワを下ろしてからちょうど40年の節目にあたり、開基40年で先人たちの苦労と将来の発展を誓い、木材業やハッカ景気に沸いていた頃です。承認にあたっては、帯広ロータリークラブをスポンサーに、昭和12年10月22日に国際ロータリーから承認番号4435番として承認され、国内で32番目、道内で８番目のクラブとして正式に発足したと記録されています。メンバーは、22名で結成されたという記録が残っています。また、戦時下では圧力により一方的に解散を余儀なくされたという記録も残っており、太平洋戦争が終わるまでは「水曜会」という形で会合を続けたとも記録されています。そして復活の時を迎え、北見ロータリークラブが再スタートしたのは昭和27年９月16日で、旭川のクラブをスポンサーとして復帰。道内で８番目のクラブとして承認され、国際ロータリーからも再承認された記録が残っております。その時のメンバーとしては、伊谷半次郎会員、五十嵐源次郎会員などの名前が記録されています。また、私が会長になる前にも少しお話ししましたが、私の名前をつけた似内哲郎さんもメンバーとして加わっています。さらに当クラブがホストとして誕生したクラブとしては、昭和33年に留辺蘂ロータリークラブ、昭和34年に遠軽ロータリークラブ、昭和36年に北見東ロータリークラブ、昭和37年に美幌ロータリークラブ、そして昭和46年には北見西ロータリークラブが設立されました。

本日は、会員講話ということで、山崎正会員から貴重なお話を伺えるということで、大変楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。以上で会長挨拶とさせていただきます。

幹事報告 高橋幹事

９月19日、４ロータリー合同ガバナー公式訪問夜間例会が開催されます。理事、役員の方は14時から意見交換会が開催されます。会員の皆様は17時20分集合、写真撮影の後に例会となります。

プログラム

「会員講話」

山崎 正 会員

こんばんは。私は、当クラブ設立当時の出来事などを紐解いてみたいと思います。この当時は、名古屋で大規模な平和博覧会が開催されました。そして相撲界では、第35代横綱・双葉山が誕生した年です。この年の重大な出来事といえば、第一次近衛内閣が誕生いたしまして、この内閣は軍部の強い圧力などに押され、不幸にも戦争の道を歩むことになります。支那事変の勃発など、日中の全面戦争が始まりました。国際的な戦争は昭和20年の８月まで続くことになります。明るい話題といたしましては、演歌の女王・美空ひばり、橋本龍太郎元総理大臣もこの年に誕生されています。昭和７年、人々の長年の希望であった石北本線が全面開通し、各地域との交流や物流の拠点などで恵まれました。また、当時の野付牛町はハッカの生産で世界の７割を占めるなど、飛躍的な発展を遂げます。こうした時代の

中で、昭和12年９月19日に、伊谷会員の祖父にあたります伊谷半次郎を中心とし、総勢26名からなるチャーターメンバーとともに、国内32番目、道内８番目のクラブといたしまして、野付牛ロータリークラブが誕生いたします。しかし、当時の世相を鑑みますと、通信、交通手段などが現在とは天と地との差がありますので、先人のご苦労はいかばかりかと推察し、深い敬意と感謝を申し上げる次第であります。

今年は昭和で100年になります。当クラブも88年を迎え、人に例えれば、88歳は米寿の記念すべき年でございます。先人のロータリアンが、文明の進んだ今の世の中を見たら、そしてロータリーの変遷を見たら、きっと驚愕されることだと思います。今日は、読売巨人軍、故・長嶋茂雄名誉監督の、あの名言をお借りいたします。「我が北見ロータリークラブは永久に不滅でございます」。先人のロータリアンの皆様方に届いたかどうかはわかりませんが、歴史と伝統ある北見ロータリークラブの継続をお誓い申し上げ、創立記念夜間例会の挨拶に代えさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

懇親会

手に手つないで
斉　唱

ソングリーダー
佐々木（朋）会員

米山奨学生
テリゲル様へ
奨学金の
受　渡　し

乾　杯　主藤副会長

締めの挨拶
田尾 SAA

会員の輪

娘は中学を卒業してすぐに、釧路にある国立高専へ入学しました。まだまだ親元にいてほしいという気持ちと、私と同じ道へ進もうとしてくれている事への嬉しさが半々でした。今はその学校も卒業して、東京の建築系大学へ編入しています。いつも色々な建物を見に行っているようで、写真が送られてくるたびに、自分が忘れかけていた「若い情熱」の様なものを思いだしています。

（中川 勝一）

出席報告

出席報告	例会日	会員総数	出席免除者数	出席者数	出席免除者の出席数	事前メークアップ	事後メークアップ	確定計算出席数	出　席　率
計　算　式		A	B	C	D	E	F	C+E+F	C+E+F/(A−B)+D×100
本日	9／10	63	0	39	0	2	−	41	65.079%

【次回9月19日】

「ガバナー公式訪問例会」

2025～2026年度　北見R.C.活動方針

「クラブに革新を　笑顔で紡ぐ奉仕の輪」
～行動しようRotarianとして～

ロータリーの広報

歴史的に、ロータリアンは、ロータリーは広報を追求すべきではなく、むしろ私たちの素晴らしい偉業が自らを物語るようにさせるべきだという神話を、不朽なものとしてきました。成果溢れる奉仕プロジェクトは、ロータリーの一番優れた広報メッセージだと考えられます。世間の人がロータリーのことを考えるときは、私たちの実施した活動や奉仕のことしか考えられないのです。

2025～2026年度　北見RC　●会長／小林　和真　●幹事／高橋　雄太　●週報編集／佐々木朋志